



【専修大学創立140周年記念事業】新制大学70年記念特別展示

新制専修大学の出発

Departure of **Senshu University** under the new system of education

2019.11.7[Thu] ▶ 2019.12.7[Sat]

〈会場〉：専修大学生田キャンパス 9号館1階エントランス

〈開館時間〉9時～18時（日曜・祝日休館）

〈入場料〉無料

140th
1880-2020
SENSHU University

主催／専修大学

問い合わせ先／専修大学大学史資料室

TEL03-3265-5879 E-mail: archives@acc.senshu-u.ac.jp

専修大学生田校舎

昭和24年（1949）4月、専修大学は戦後新たに制定された学校教育法に基づく「新しい大学」（新制大学）として再スタートをきりました。今からちょうど70年前のことです。

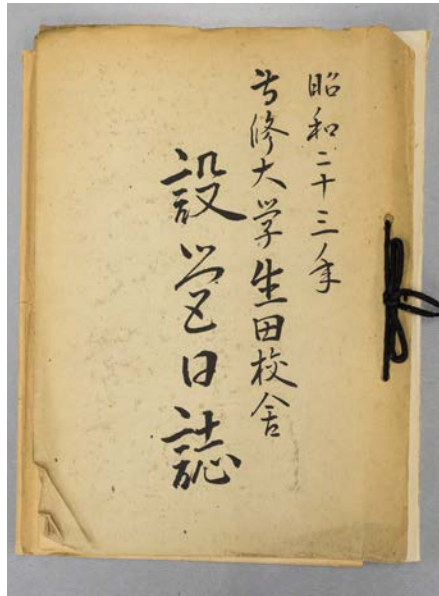
専修大学の歴史は140年と長きに渡りますが、実は新制専修大学こそ、現在の専修大学の原点とも言えます。生田キャンパスはこの新制大学としての認可を得るためにつくられたキャンパスで、現在のように神田・生田の両キャンパスを擁する大学となったのは、この時からでした。

それだけではありません。戦前、専修大学は少数精鋭の大学でしたが、戦後は学生数を増やし、大規模大学へと変貌を遂げます。それまで、わずか1万5千人ほどであった卒業生の数が、この70年間で、約26万人となったことがそのことをよく物語っています。まさに新制専修大学こそ、現在の専修大学の原点と言えるでしょう。

本展示では、専修大学創立140年の軌跡のうち、その半生の始まりとなった新制専修大学の姿をなつかしい写真や資料でご紹介します。戦後の専修大学の新たな歩みをぜひご覧ください。



専修大学新聞 第4号
(1947年)



専修大学生田校舎設営日誌
(1948年)



戦後、英文の表札が掲げられた神田キャンパス正門
(1948年頃)



男女共学が始まった頃の経済学部・小林良正教授のゼミナール風景 (1947年頃)

第1部 新制大学とは？-戦後の教育改革-

終戦後の日本において、新たに教育制度の改革が行われました。

第2部 新制専修大学の誕生

戦前、数少ない旧制大学の一つとして、経済・法律教育に貢献してきた専修大学にとっても、新制への移行は難事業でした。

第3部 生田キャンパスの創生

新制大学への認可を得るため、狭隘な神田キャンパスだけでなく、新たに広い敷地を擁するキャンパスが必要とされました。

第4部 今はなき短期大学部

新制大学の特徴の一つに短期大学の設置が挙げられます。ここでは専修大学が設置した短期大学部を紹介します。

第5部 新制大学生の歓喜と苦悩

戦前と戦後では、大学生そのものの数が大きく違います。学内において、また、社会において大学生とは何だったのでしょうか。



創立70周年記念祭のポスター
(1949年)

専修大学生田キャンパス

(住所) 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

アクセス方法

- 向ヶ丘遊園駅（小田急線）北口よりバスで約10分、または南口より徒歩14分
- あざみ野駅（東急田園都市・横浜市営地下鉄）西口より「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約30分（専修大学120年記念館前下車）

